

金沢を訪れた観光客から見た富山県観光

Sightseeing in Toyama in the Eyes of Tourists Visiting Kanazawa

助重雄久・金沢・富山観光調査グループ

SUKESHIGE Takehisa, The Research Group on Tourism in Kanazawa and Toyama

本研究では、金沢を訪れた観光客が①富山県の観光地まで足を伸ばすのか否か、②富山のどのような観光地に関心や魅力を持っているのか、③富山県まで足を伸ばさない理由は何なのか、④富山県にどのようなイメージを持っているのか、といった点を考察した。この結果、「以前に行った観光地」と「行ったことはないが魅力を感じる観光地」としては、多くの人々が立山黒部アルペンルート、宇奈月温泉・黒部峡谷、五箇山合掌集落をあげた。また、対象者が持っている富山県のイメージを「食」「自然環境」「生活、人」、「観光地、産業観光」の4グループに分類した結果、極度に「食」に偏っていた。「食」は富山の「売り」ではあるが、現状ではイメージが希薄な分野で輝きそうな資源や人財を磨き、それらの魅力を県外の人々に伝えていくことが、多くの観光客を富山県に呼び込むためのポイントといえよう。

キーワード：金沢、富山県、北陸新幹線、開業効果、観光

I はじめに

1. 研究の背景

北陸新幹線は、2015年3月14日の長野ー金沢間開業以降の半年で約482万人、1日平均約26,000人が利用した¹⁾。この数値は、前年同期の特急「はくたか」「北越」の利用客の約3倍にあたる。

北陸の観光地もまた、新幹線開業効果に乗じて観光客数を伸ばしている。富山県では立山黒部アルペンルートの2015年4～7月の入込客数が前年同期に比べて5.6%増加した²⁾。また宇奈月温泉の4～8月の利用客も、黒部宇奈月温泉駅の設置効果で前年同期に比べて39%増となった³⁾。北陸新幹線の未開通区間に位置する福井県あわら市でも、アニメ「ちはやふる」関連イベントと新幹線開業の相乗効果で2015年の観光入込客数が前年比10.3%増の200万5,900人に達し、20年ぶりに200万人を突破した⁴⁾。

こうしたなかで、新規開業区間の終点にあたる金沢市は新幹線開業の恩恵をもっとも大きく受けたといわれている。石川県が実施した「新幹線開業後の状況把握調査」によると、金沢市内の徒歩観光客は、2015年のゴールデンウィークに行った調査では前年秋の行楽期に比べて、近江町市場前で2.4倍、ひがし茶屋街がある東山で5.3倍、香林坊で1.4倍に増加した。また、新幹線開業後半年間における入込客数は、金沢城公園で前年同期比約1.8倍の約140万人、兼六園で前年同期比約1.4倍の約171万人にのぼった⁵⁾。

2. 研究目的

本研究の目的は、北陸の人気観光地・金沢を訪れた観光客が①富山県の観光地まで足を伸ばすのか否か、②富山のどのような観光地に関心や魅力を持っているのか、③富山県まで足を伸ばさない場合、その理由は何なのか、④富山県にどのようなイメージを持っているのか、といった点を解明し、今後の観光振興に向けた取り組みで何を重要視すればよいのかを検討することにある。

従来、地域外の人々がある地域にどのようなイメージを持っているのかを把握する手法としては、郵送やインターネットによる意識調査や、調査地域の住民と地域外に住む人々の関心やイメージの違いを比較するイメージギャップ調査等が多用されてきたが、本研究では調査者が観光客と対面して直接話を聞く対面式アンケート調査を実施した。金沢市で調査を実施したのは、集客力の高い金沢を訪れた観光客が、富山県観光に対してどのような認識を持っているのかを把握しておくことが、観光誘客を図るうえで重要と考えたからである。

II アンケート調査の概要

1. 調査方法

対面式アンケート調査は2015年11月22日(日)～23日(月・祝)に兼六園周辺、石川橋、ひがし茶屋街、金沢城黒門、広坂緑地等、観光客の動線となる場所で行った。調査対象者は、これらの場所を通りかかった観光客から無作為に選び、調査票の質問事項に基づいて調査者が直接対象者に質問する方法で行った。質問項目は調査用紙(表1)に示したとおりである。

2. 調査対象者の基本属性(性別・男女・同伴者等)

有効回答を得た調査対象者は517名であった。対象者が夫婦・カップルや、家族連れ、グループの場合は、原則として代表者1名に回答するよう依頼したが、グループで複数の男女が話し合いながら回答したケースがあった。このため、回答者の男女内訳は男性236名(45.6%)、女性280名(54.2%)、複数の男女で回答したものが1組(0.2%)となった。以下、複数の男女が回答した1組については特記のなき限り1名分の回答として取り扱う⁶⁾。

回答者を年齢別にみると、20歳未満19名(3.7%)、20歳代110名(21.3%)、30歳代80名(15.5%)、40歳代90名(17.4%)、50歳代95名(18.4%)、60歳代以上115名(22.2%)、無回答7名(1.4%)で、60歳代以上の割合がやや高いものの、20歳代～60歳代以上の各世代が幅広く訪れていた。

同伴者別でみると、家族連れが141名(27.3%)でもっとも多く、次いで夫婦・カップルが140名(27.1%)であった。以下は、9人未満のグループ138名(26.7%)、ひとり旅63名(12.2%)、10人～29人のグループ18名(3.5%)、30人以上のグループ8名(1.5%)、人数無回答のグループ7名(1.4%)、無回答2名(0.4%)の順であった。これらから、対象者の81.1%が夫婦・カップルや家族連れ、9人未満のグループであることが明らかになった。

2) 対象者の居住地

対象者の居住地を都道府県別にみると、東京都が96名(18.6%)で最も多く、石川県内の57名(11.0%)がこれに次いだ(図1)。以下、全対象者に占める割合が5%を上回った府県は、埼玉県34名(6.6%)、愛知県29名(5.6%)、大阪府28名(5.4%)、富山県26名(5.0%)であった。

表1 調査用紙

金沢および富山県における観光行動に関するアンケート

1. お住まいはどちらですか？
 a. 県外…都道府県名 [] b. 県内…市町村名 [] c. 国外…国名 []

2. 今回の旅にはどなたと何人で来られましたか？ **人数にはご自分も含まます**
 a. ひとり旅 b. 夫婦・カップル c. 家族と []人 d. グループ、団体等 []人

3. 出発地から石川県に来るのに利用した交通手段を教えてください。 **複数回答可、金沢市内での移動は記入不要**
 a. 北陸新幹線 b. JR 在来線(北陸本線等) c. 飛行機 d. 自家用車 e. レンタカー f. 高速バス
 g. 観光バス(団体貸切) h. 観光バス(パックスツアー) i. その他 []

4. 宿泊日数と宿泊地域について教えてください。
 a. 日帰り b. 1泊 c. 2泊 d. 3泊以上 →うち金沢市内 []泊 金沢市以外 []泊
 → **金沢市以外に泊まれた場合、その地域名** []

5. 金沢および北陸(富山・石川・福井県)に来たのは何回目ですか？
 a. はじめて b. 2回目 c. 3回以上 →金沢 [] 北陸 [] **←該当する記号をカッコ内に記入**

6. 金沢市内では、どんな観光地に立ち寄りますか？ **複数回答可**
 a. 兼六園 b. 金沢城 c. 金沢 21 世紀美術館 d. ひがし茶屋街 e. 近江町市場
 f. 長町武家屋敷 g. 妙立寺(忍者寺) h. その他 []

7. 今回の旅で、富山県を訪れる予定はありますか？
 a. ある b. ない

8. 富山県内の観光地について、以下の分類に従い、表の該当する欄に記号を記入して下さい。
 今回の旅で行く(行った)◎、以前の旅で行った○、行ったことはないが魅力を感じる△、この観光地を知らない×

立山黒部アルペンルート	高岡市(瑞龍寺、金屋町等)
宇奈月温泉・黒部峡谷	氷見市(ひみ番屋街等)
魚津市(埋没林博物館等)	砺波チューリップ公園
富岩運河環水公園	五箇山合掌集落
富山市街(池田屋安兵衛商店等)	三井アウトレットパーク北陸小矢部
越中八尾(おわら風の盆等)	その他 []
新湊大橋・海王丸パーク	その他 []

9. **今回の旅で、富山県に行かない方におたずねします。**富山県に行かない理由を教えてください。 **複数回答可**
 a. 時間がなかった
 b. 主な目的地が金沢だったため通過した(関東・東北方面からの場合)
 c. 金沢で北陸新幹線に乗り換えが必要なので、行きづらかった(関西方面から鉄道利用の場合)
 d. 魅力を感じる観光地等がなかった
 e. その他 []

10. 富山県のイメージについて、自由にご記入ください。
 []

[性別] a. 男 b. 女
 [年齢] a. 20 歳未満 b. 20 歳代 c. 30 歳代 d. 40 歳代 e. 50 歳代 f. 60 歳代以上

ご回答いただきありがとうございます。

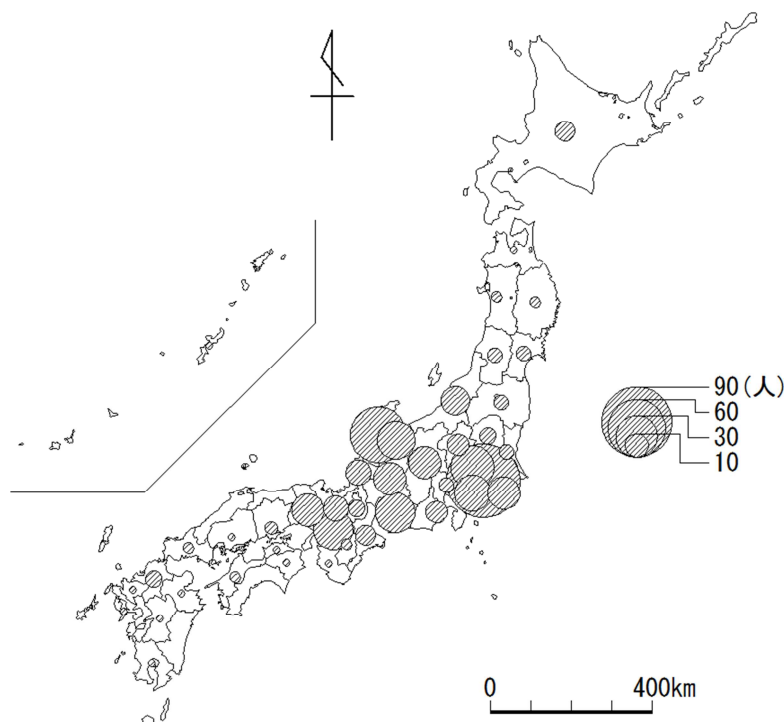


図1 調査対象者の居住地
(アンケート調査をもとに作成)

Ⅲ 金沢での観光行動に関する調査結果

本研究では、金沢において調査を実施したことから、金沢に来るまでに利用した交通手段や金沢での観光行動についても考察した。

1. 金沢への来訪手段・来訪回数

1) 利用交通手段

金沢に来る際に利用した交通手段は、北陸新幹線が182名(35.2%)でもっとも多く、以下は自家用車151人(29.2%)、JR在来線(北陸本線等)81名(15.7%)、飛行機34名(6.6%)、高速バス18名(3.5%)、観光バス(パックツアー)9名(1.7%)、レンタカー8名(1.5%)、観光バス(団体貸切)7名(1.4%)の順であった。公共交通機関(北陸新幹線、JR在来線、飛行機、高速バス)の利用者は315名で、全体の61.0%を占めた。

関東・中部・近畿地方からの利用交通手段を比較すると、その違いが鮮明になる(表2)。関東地方は来訪した191名のうち128名(67.0%)は北陸新幹線を利用しており、その他に含まれている飛行機の20名(10.5%)、自家用車の16名(8.4%)を大きく引き離した。一方、中部地方は来訪した194名のうち101名(52.3%)が自家用車を利用していた。北陸新幹線利用者26名(13.4%)のなかには、北陸新幹線に乗りたいたがために、東海地方から東京を経由して来た人もみられた。

一方、近畿地方は来訪した65名のうち30名(46.2%)が在来線(北陸本線等)、26名(40.0%)が自家用車を利用しており、鉄道利用とマイカー利用が拮抗していた。また、近畿地方においても北陸新幹線に乗る目的で東京を経由して来た人が2名みられた。

表2 関東・中部・近畿地方からの利用交通手段

地方	来客数		北陸新幹線		在来線		自家用車		その他	
		比率		比率		比率		比率		比率
関東	191	100.0	128	67.0	16	8.4	16	8.4	31	16.2
中部	194	100.0	26	13.4	18	9.3	101	52.1	49	25.3
近畿	65	100.0	2	3.1	30	46.2	26	40.0	7	10.8

単位: 人、%

資料: アンケート調査により作成

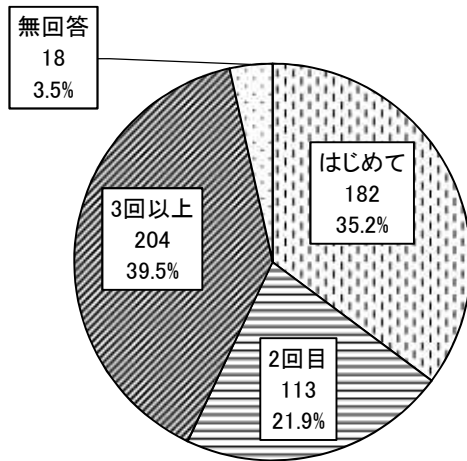


図2 金沢への来訪回数

(アンケート調査をもとに作成)

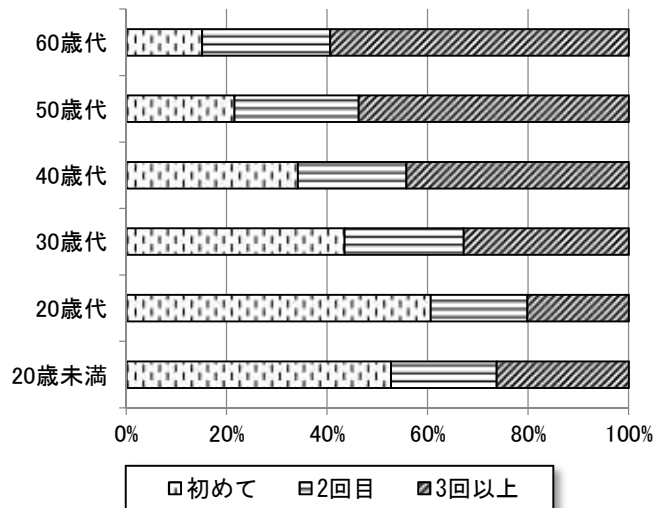


図3 年齢別来訪回数

(アンケート調査をもとに作成)

2) 来訪回数

金沢への来訪回数は、はじめて182名(35.2%)、2回目113名(21.9%)、3回以上204名(39.5%)、無回答18名(3.5%)であった(図2)。来訪回数を年齢別にみると、年齢が上がるにつれリピーターが増える傾向がみられた(図3)。金沢は、若い世代から中高年まで幅広い年代が飽きずに楽しむことができる観光地であることがうかがえる。リピーターが過去にいつ頃金沢を訪れたのかは尋ねなかったが、若い時に金沢に来た人たちが北陸新幹線開業を機に再訪した可能性も考えられる。

また、初めて金沢に来た182名のうち81名が北陸新幹線を利用して訪れていた。これらの人々のなかにも、北陸新幹線開業を機に金沢を訪れた人が多いと考えられる。

2. 金沢での宿泊・観光

1) 宿泊日数・宿泊地

今回の旅行における宿泊日数は日帰りが135名(26.1%)、1泊が239名(46.2%)、2泊が113名(21.9%)、3泊以上が24名(4.6%)、泊数未定・無回答が6名(1.2%)であった(表3)。調査日が3連休の2日目と3日目であったことから全体の72.7%にあたる376名が宿泊していた。また、金沢市内への宿泊状況をみると、旅行日程全体が1泊と回答した239名のうち164名が金沢市内で宿泊していた。旅行日程全体が2泊と回答した113名は26名が金沢市内に1泊、60名が金沢市

表3 今回の旅行での宿泊日数

泊数	旅行日程全体		金沢市内		
		比率	1泊	2泊	3泊以上
日帰り	135	26.1	—	—	—
1泊	239	46.2	164	—	—
2泊	113	21.9	26	60	—
3泊以上	24	4.6	6	7	8
泊数未定・無回答	6	1.2	—	—	—
	517	100.0	196	67	8

単位:人、%

資料:アンケート調査により作成

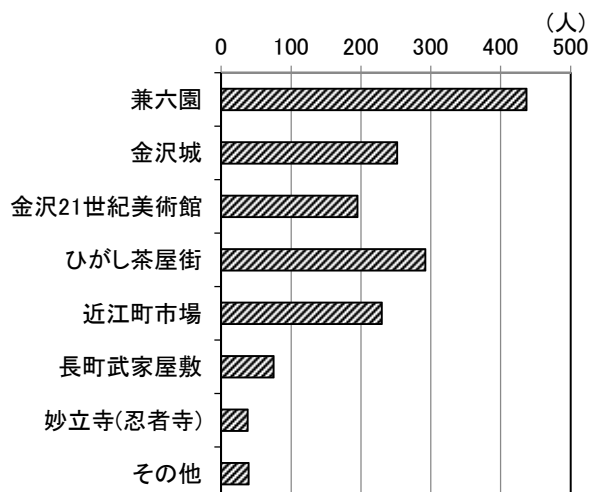


図4 調査対象者の居住地

(アンケート調査をもとに作成)

内に2泊していた。旅行日程全体が3泊以上と回答した24名は、6名が金沢市内に1泊、7名が金沢市内に2泊、8名が金沢市内に3泊以上宿泊していた。一方で、宿泊するにもかかわらず金沢市内に1泊もしない人は、旅行日程全体が1泊と回答した239名のうち75名、2泊と回答した113名のうち27名、3泊以上と回答した24名のうち3名おり、日帰りと合わせると全対象者の46.4%にあたる240名が金沢市内に宿泊しないことが明らかとなった。

金沢市内以外での宿泊地については、調査方法の不備もあって信憑性のある定量的データがとれなかったが、山中・山代・和倉といった温泉地に宿泊する人と、富山・福井市内のホテルに宿泊する人に大きく分かれた。調査を実施した時期には金沢市内の宿泊施設が不足し、通常より大幅に高い宿泊料金を設定している宿泊施設が目立つことが問題となっていた。このため、金沢市内で宿泊地を確保できず、やむを得ず富山・福井市内のホテルに宿泊した人も数多くいると考えられる。

2) 金沢市内での観光行動

金沢市内で立ち寄る(立ち寄った)観光地(複数回答あり)は、兼六園が437名でもっとも多く、ひがし茶屋街(292名)がこれに次いだ。以下は、金沢城(252名)、近江町市場(230名)、金沢21世紀美術館(195名)、長町武家屋敷(75名)、妙立寺(忍者寺)(38名)、その他(39名)であった。その他では、市内にある美術館や博物館、金沢駅、香林坊などがあげられたが、いずれの場所も立ち寄った人はわずかであった。

一方、兼六園、ひがし茶屋街、金沢城、近江町市場、金沢21世紀美術館には多くの人が立ち寄っていた。上記の5か所のうち、もっとも立ち寄った人が少ない21世紀美術館と、次位の長町武家屋敷の訪問者数には120名もの開きがみられた。以上の点から、金沢市内の観光は主要観光地5か所を周遊することが定番化しており、その他の観光地に立ち寄る人の数は主要観光地5か所に比べ著しく少ないことが明らかとなった。主要観光地5か所は徒歩で巡れる範囲内にあり、観光客の行動範囲は狭い。観光客の行動範囲の狭さは、近年各地で取り組みが行われている「まちあるき」には適している反面、市内での滞在時間の短さにも結びつくと考えられる。

IV 富山県の観光地に関する調査結果

1. 富山県内観光地への訪問と関心

1) 富山県への訪問

富山・石川両県在住者を除く対象者 433 名に今回の旅で富山県を訪れるかどうかを尋ねたところ、「訪れる(た)」は 80 名 (18.5%)、「訪れない」は 350 名 (80.8%)、無回答は 3 名 (0.7%) であった。「訪れない」と答えた 350 名に対しては、富山県を訪れない理由も尋ねた結果、「時間がなかった」(180 名)、「主な目的地が金沢」(143 名)といった回答が多数を占めた(図 5)。北陸新幹線利用者(151 名)と大阪方面からの在来線利用者(58 名)とに分けてみても、この 2 つの回答が突出している点は変わらなかった。今回の旅の主目的はあくまで金沢市内の観光地散策で、それに大部分の時間を費やす人が多数を占めていたものと考えられる。

大阪方面から在来線を利用してきた人で、「金沢での乗り換えが必要」と回答した人はいなかった。当初から旅の主目的が金沢であるため、富山県に行くことを考慮していなかったものと考えられる。一方、北陸新幹線を利用して関東や新潟方面からきた 7 名が「金沢での乗り換えが必要」なことを理由としてあげた。これらの回答の真意は不明であるが、「金沢からわざわざ在来線で戻ってまで富山県に行かない」と考えている可能性もある。

富山県には「魅力を感じる観光地等がない」と回答した人も 14 名いた。少数意見ではあるが、富山県にとってはもっとも厳しい意見といえる。

2) 富山県内観光地への訪問状況と関心

アンケートの対象者全員に、富山県内観光地にどの程度行く(行った)のか、どの程度関心をもっているのかを回答してもらった。回答にあたっては富山県の主要観光地を金沢に近い方から順に並べた表を作成し、今回の旅で行く(行った)観光地には◎、以前に行った観光地には○、行ったことはないが魅力を感じる観光地には△、この観光地を知らない場合は×をつけてもらった。

今回の旅で行く(行った)観光地(◎)の上位は、高岡(瑞龍寺、金屋町、高岡大仏等)の 21 名で、以下は富山市街(池田屋安兵衛商店等)20 名、五箇山合掌集落(相倉、菅沼)17 名、氷見(ひみ番屋街等)14 名、宇奈月温泉・黒部峡谷 11 名、新湊(新湊大橋・海王丸パーク等)10 名で、金沢から比較的近い県西部の観光地が目立った(図 6)。立山黒部アルペンルートは冬季閉鎖直前であったため少なかったものと考えられる。

以前に行ったことのある観光地(○)の上位は、立山黒部アルペンルート 143 名、宇奈月温泉・黒部峡谷 120 名、五箇山合掌集落(相倉、菅沼)が 105 名、氷見が 97 名、砺波チューリップ公園と

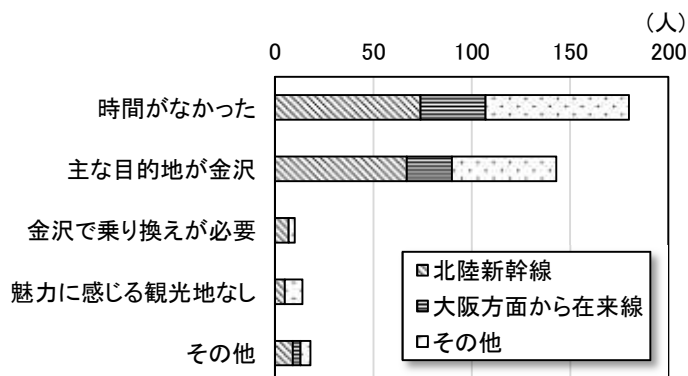
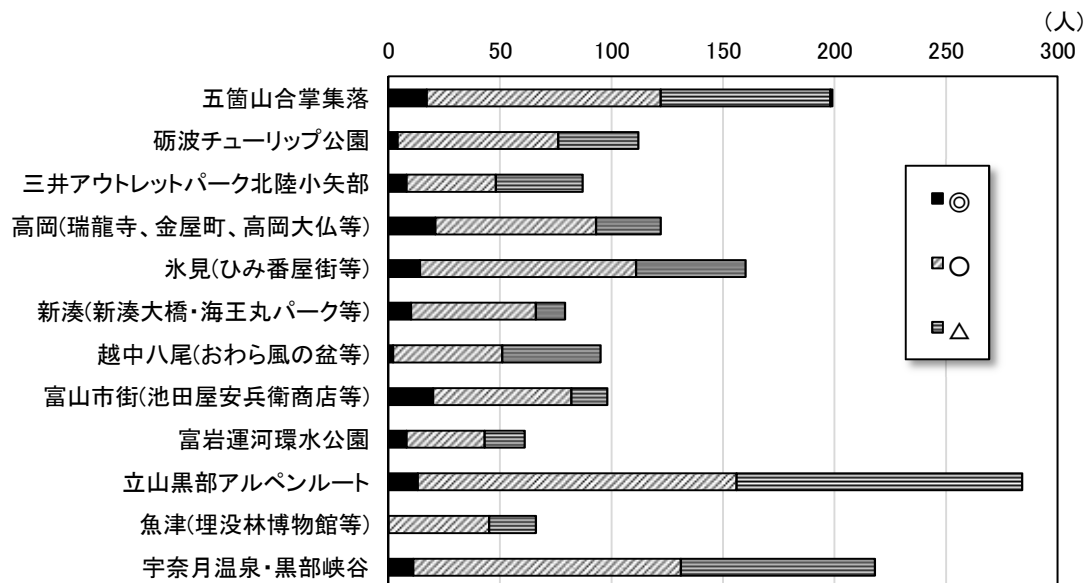


図 5 富山県を訪れない理由

(アンケート調査をもとに作成)



今回の旅で行く(行った)◎ 以前に行った○ 行ったことはないが魅力を感じる△

図6 行ったことがある観光地、魅力を感じる観光地

(アンケート調査をもとに作成)

高岡がともに72名、富山市街62名、新湊56名であった。この結果では、富山県の「三大観光地」ともいえる立山黒部アルペンルート、宇奈月温泉・黒部峡谷、五箇山合掌集落が上位を占めたが、ここでも県西部の観光地が上位に入っていた。とくに砺波チューリップ公園は、「チューリップフェア」以外の時期に多くの観光客が訪れるとは考えにくい。逆に言えば、砺波チューリップ公園と回答した人々の多くは「チューリップフェア」に行ったものと考えられ、「チューリップフェア」の人気の高さがうかがえる。

行ったことはないが魅力を感じる観光地(△)も「三大観光地」が上位を占めた。なかでも立山黒部アルペンルートは128名で、次位の宇奈月温泉・黒部峡谷(87名)を大きく上回っており、多くの人が魅力を感じていることがうかがえた。

◎○△をすべて合計した場合は立山黒部アルペンルート284名、宇奈月温泉・黒部峡谷218名、五箇山合掌集落(相倉、菅沼)が198名、氷見が160名、高岡122名、砺波チューリップ公園112名の順となり、ここでも「三大観光地」が突出していた。

一方、この観光地を知らない(×)が多かった観光地の上位は、富岩運河環水公園107名、新湊103名、魚津(埋没林博物館等)101名、三井アウトレットパーク北陸小矢部99名、越中八尾(おわら風の盆等)と富山市街(池田屋安兵衛商店等)がともに90名であった。上位の観光地のなかには近年開設されたものもあるため、全国的にはまだ知名度が低いものと考えられるが、越中八尾(おわら風の盆等)というカッコ書きをつけたにもかかわらず、知らない人が多数を占めたのは、研究メンバーにとって予想外であった。

2. 富山県のイメージ

表4は富山県のイメージを自由に回答してもらい、それらを「食」「自然環境」「生活、人」、「観光地、産業観光」の4グループに分類した結果を示している(複数回答あり)。これをみると、食に関しては「魚・海の幸」と回答した人が87名でもっとも多かった。以下は、「ホタルイカ」「(寒)ブリ」がそれぞれ21名、「食、食事がおいしい」が20名、「白エビ」18名、鱒のすし17名などであった。食に関する回答はのべ258名で、ジャンル別ではもっとも多かった。

自然環境に関してはのべ74名の回答があり、「山がある・山がきれい」が23名でもっとも多かった。以下は、「自然が(豊か)・景色がいい」、「海がある・海がきれい」がそれぞれ15名、「水がきれい、おいしい」が14名などであった。生活・人に関してはのべ19名しか回答がなかったが、「まじめ、人が良い」が8名、「家が大き、持ち家率」が7名、「住みやすい」が4名で、テレビなどでよく話題となる「まじめな県民性」「住みやすい県」に関わる回答ばかりであった。

観光地・産業観光に関してはのべ137名の回答があり、「立山」が30名、「ダム、黒部ダム」が28名で、立山黒部アルペンルートに関する回答が上位を占めた。また「売薬」も28名で、「富山の薬売り」のイメージも強いことがわかった。以下は「チューリップ(公園)」19名、蟹気楼10名などであった。「チューリップ(公園)」はここでも上位にランクされていた。

一方、マイナスイメージと考えられる回答も、のべ64名にのぼった。これらは、「イメージがない・観光地がない」20名、「雪(が多い)」16名、「寒い」13名、「地味、活気がない、暗い」12名、「金沢にかなわない」3名であった。

表4 富山のイメージ

[食]		[観光地、産業観光]	
魚・海の幸	87	立山	30
ホタルイカ	21	ダム、黒部ダム	28
(寒)ブリ	21	(売)薬	28
食、食事がおいしい	20	チューリップ(公園)	19
白エビ	18	蟹気楼	10
鱒のすし	17	アルペンルート	7
米(がおいしい)	7	路面電車	5
ブラックラーメン	6	黒部峡谷、トロッコ電車	4
寿司(がおいしい)	5	おわら、風の盆	3
昆布	2	アウトレット	3
[自然環境]		[マイナスイメージ]	
山がある、山がきれい	23	イメージがない、観光地がない	20
自然(が豊か)、景色が良い	15	雪(が多い)	16
海がある、海がきれい	15	寒い	13
水がきれい、おいしい	14	地味、活気がない、暗い	12
美しい、きれい	6	金沢にかなわない	3
川(がきれい)	1		
[生活、人]			
まじめ、人が良い	8	単位:人	
家が大き、持ち家率	7	資料:アンケート調査により作成	
住みやすい	4		

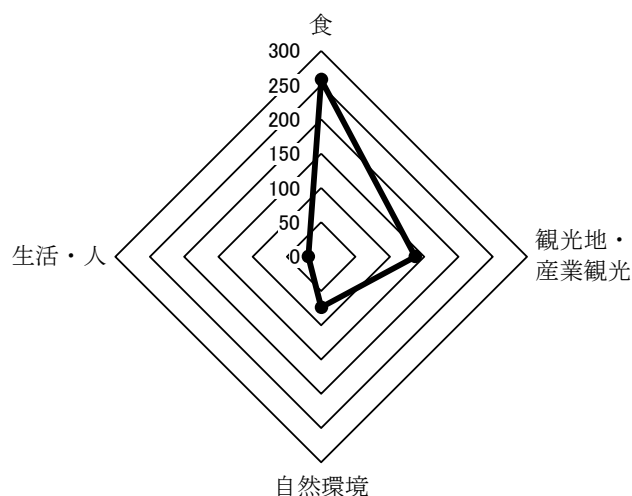


図7 富山県の魅力
(アンケート調査をもとに作成)

図7は4つのグループの回答数をもとにして作成したレーダーチャートである。これをみると、イメージが「食」に偏っていることが一目瞭然となる。「食」は確かに富山の「売り」であるが、それだけで富山に人を呼ぶことは難しい。マイナスイメージの回答に「金沢にはかなわない」という声があったが、金沢に勝る観光資源を作るよりも、現状ではイメージが希薄な「観光地・産業観光」、「自然環境」、「生活、人」といった分野のなかで、磨けば輝きそうな資源や人財を見つけ出すことが重要と考えられる。

V おわりに

本研究では金沢を訪れた観光客を対象に実施したアンケートをもとに、まず金沢市内での観光客の行動について考察した。この結果、金沢市内は北陸新幹線開業を機に活況を呈しているが、1)日帰りとおわせると全対象者の46.4%が金沢市内に宿泊しないこと、2)宿泊しても大半は1泊であること、3)観光客の立ち寄り先が兼六園、ひがし茶屋街、金沢城、近江町市場、金沢21世紀美術館の5か所に集中しており、観光客の行動範囲の狭さが金沢市内での滞在時間の短さにも結びついている可能性があることなどが明らかになった。

さらに本研究では、金沢を訪れた観光客が、①富山県の観光地まで足を伸ばすのか否か、②富山のどのような観光地に関心や魅力を持っているのか、③富山県まで足を伸ばさない場合、その理由は何なのか、④富山県にどのようなイメージを持っているのか、といった点についてアンケートの結果をもとに検討した。その結果、調査時の旅行中に富山県に行くと言った人は富山・石川両県在住者を除く対象者の18.5%にすぎなかったが、「以前に行った観光地」と「行ったことはないが魅力を感じる観光地」を訪ねた質問では、多くの人々が富山県の「三大観光地」ともいえる立山黒部アルペンルート、宇奈月温泉・黒部峡谷、五箇山合掌集落をあげた。また、氷見、高岡、砺波チューリップ公園など県西部の観光地も、比較的多くの人々が以前に行ったり、魅力を感じたりしていた。

対象者がもっている富山県のイメージは、「食」「自然環境」「生活、人」、「観光地、産業観光」

の4グループに分類して考察した結果、「食」に偏っていることが一目瞭然であった。「食」は確かに富山の「売り」であるが、それをさらに売り込むよりも、イメージが希薄な分野で輝きそうな資源や人財を磨き、それらの魅力を県外の人々に伝えていくことが必要ではないだろうか。

例えば、金沢を訪れた観光客の関心が比較的高かった高岡は、銅器産業が盛んなまちである。銅器工場や展示施設の見学は従来から観光コースに組み込まれているが、銅器職人の説明を聞きながら作品のある寺社等を巡るツアーを企画すれば、銅器の魅力をより多くの人々に認識してもらえるであろう。また、富山県西部では城端の絹織物、井波彫刻などの伝統工芸や、高岡の御車山、城端曳山祭、福野夜高祭などの伝統的な祭事も受け継がれている。これらを伝承する人々にその魅力を語ってもらったり、工芸や祭りの体験を行ったりして、金沢に来た人を富山県西部に1~2泊させられるような観光モデルを確立することも、多くの観光客を富山県に呼び込むためのポイントになると考えられる。

本稿は、平成27年度「観光調査・分析法」で2015年11月22~23日に金沢市で実施した観光客動向調査の成果をもとに作成した。参加学生は下記のとおりである。

女川 乃子、川田 朱莉、木佐貫あすか、栗山 咲樹、坂上 健高、佐藤 廉、清田 春香、孫 万程、滝澤明日花、瀧森安祐美、竹腰莉緒菜、中島 康輔、番匠 哲也、藤谷 魁人、古金 賢登、松葉 迅斗、間部 諒、村 恵里佳、柳川 潤紀、山崎 莉歩(以上2年次生20名)

注および参考文献

- 1) JR西日本の2015年9月社長定例会見による。利用客数は、上越妙高~糸魚川駅間を通過した客数を示している。
- 2) どうしんウェブ(北海道新聞ウェブ版)2015年9月18日付「北海道新幹線 開業まで半年 北陸、集客衰えず」による。(http://dd.hokkaido-np.co.jp/cont/bullet_train_6months_more/2-0029265.html)
- 3) 前掲2)。
- 4) 産経ニュース(ウェブ版)2016年2月29日付「昨年、あわら観光客200万人超 20年ぶり、新幹線やアニメ効果 福井」。(http://www.sankei.com/region/news/160229/rgn1602290032-n1.html)
- 5) 石川県が実施した「新幹線開業後の状況把握調査」による。(http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kikaku/keikaku/documents/06shinkansen.pdf)
- 6) 対面式アンケートで代表者に回答してもらった場合、回答者に同伴者がいると、複数の人が意見を出し合い、最終的に代表者が回答するというケースもたびたび生じる。たとえば子ども連れの家族や夫婦の場合は、代表者として夫婦のいずれかが回答するが、この回答はあくまで家族の代表としての回答であるため、回答を男女別に集計、分析しても結果の信憑性は低い。こうした考え方に基づいて、本研究では男女別の集計、分析を行わず、男女複数で回答した1組についても有効回答として扱った。